



日野学園だより

37

品川区立小中一貫校 日野学園

校長 青木 経

ホームページアドレス <http://www1.cts.ne.jp/~hinogaku/>

平成 21 年 6 月 1 日

全校体制で取り組みます

校長 青木 経

5月には5年生のステューデントシティを皮切りに、1年生～4年生の校外学習がおこなわれました。各学年の成長段階にあった目的と目的に沿った場所が選択され、クラスを越えた学年の様子がはっきりと出た内容でした。全ての学年で市民科のねらいとして「マナーやルールを守って行動する」(自治的活動領域)が設定されていましたが、上級生になるに従い自律的な行動が見られました。1年生はあいにくの天気でしたが、雨の中をクラスごとによくまとまり先生の指示に従って立派な態度で行動していました。どのような条件においても、きちんとした行動が取れることは非常に大切なことであり、一貫校として9年間で行動様式を身に付けさせることが必要であると実感しました。

また、5月23日に実施されました運動会には多くのご参観をいただきありがとうございました。保護者アンケートからは、一貫校ならではの特色ある運動会であると言ったご意見と同時に、1年生から4年生までの参加について疑問のお声も寄せられました。また、放送や設備などに対するご意見の中で、改善できる内容については来年度実施いたします。定期的なメール配信は賛否両論ありましたが、配信内容に配慮しながら効率よく見ていただくため来年度も実施いたします。年齢の離れた子どもたちが一つにまとまる機会が全くと言ってない社会状況の中で、本校の運動会は子どもたちの心の成長にとって大きな意義があります。一貫校としての行事の在り方として、よさと必要性をご理解いただきたいと思います。

予定されていた9年生の修学旅行は、新型インフルエンザの影響で8月下旬に延期といたしました。大きな行事がない6月は全校体制で「学習充実月間」としての取り組みをおこないます。すでに9年生は、「入試に向けて偏差値5アップ」として各教科ごとに中間試験までに付けさせたい力と具体的な手立てを生徒に示しました。かつて偏差値に対する過信からあやまった使い方も見受けられましたが、実際に個々の生徒が教科ごとにどのくらい出来るようになったかを比べたり、他教科と比較することによって苦手な教科を克服する上で非常にわかりやすい目標設定が出来ます。義務教育最後の年である9年生にとっては、これからの進路選択は非常に重要な意味を持ちます。それだけに運動会で見せてくれた自信と誇りを胸に、学力向上に向けて全力で取り組んでもらいたいと思います。

8年生以下については、4月に実施した標準学力調査(1年生は知能検査)の結果から各教科ごとに正答率の低かった単元や指導内容を重点的に学習させます。国や品川区が実施している学力調査では必ず結果の分析と対策をホームページで公表していますが、今回の結果を受けて課題解決は1学期中におこなう姿勢で取り組みます。具体的な指導内容については、改めてホームページで公表しますのでご覧ください。

日野学園の児童・生徒達の生活状況は過日の運動会でご覧いただいた通りです。上級生は下級生の見本となる態度と行動を取り、下級生は上級生を手本として社会性を身に付けています。子どもたちの心の安定と成長は、学習環境を作る上で必須の条件であり各ご家庭と学校との連携から生まれます。今月の「学力充実月間」を各ご家庭においては、家庭学習の定着を目標として取り組んでいただきたいと思います。

学 年 紹 介

part 1

「これが わが学年の
自慢です。」



2 学年 「ぼくたちお兄さんになりました」

学年主任 園田 和子

2年生は、4月末1年生に学校案内をしました。昨年は、案内してもらおう立場だった2年生も、今年は、1年生に案内する頼もしいお兄さんお姉さんです。校長室や職員室、保健室、音楽室など、やさしく丁寧に案内しました。「1年生が真剣に(自分の話を)聞いてくれてうれしかった」「1年生が一生懸命書いてくれたからすごいきんちょうした」「ちゃんと案内できたからうれしかった」と2年生は、先輩になったうれしさや張り切っている感じが感じられました。

5月には、兄弟クラス(2年と1年の同じクラス同士)で一対一の兄弟として活動を開始しました。まずはお互いに名刺交換。その後は仲良く共同制作で絵を描きました。どの子も、「僕たち(私たち)おにいさん(おねえさん)なんだ」と誇らしげな表情です。「1年生ともっと遊んであげたい」「もっといろんなことを教えてあげたい」と弟、妹ができたことを心から喜んでいるようです。「環境は人を育てる」と言いますが、子どもたちが弟、妹ができたことで、さらに成長してくれるでしょう。ご来校の際は、ちょっぴりお兄さん、お姉さんになった2年生の様子を見てください。



4 年 「考えています。上級生としてできること」

学年主任 吉田 真美

1年生から9年生まで一緒に生活している日野学園では、4年生はまだ小さな小学生です。しかし1年生から4年生までの児童で活動している1-4ブロックでは、4年生は最上級生です。その中で、下級生のためにがんばろうと、はりきっています。

先日の運動会では、午前の部の最後のプログラムに“先輩ファイト”がありました。これは、午前で帰る1年生から4年生が、午後の部に向けて5年生以上の先輩にエールを送る応援でした。ここでは、4年生が応援団を作り下級生を引っ張りました。「大きな声をだして。」「ちゃんと並んで。」などと下級生に声をかける姿は9年生中心の応援団を真似しようがんばっていることが伝わりました。

また、1年生から4年生を26班に分けて活動する縦割りグループでも、4年生が班長・副班長になります。班長を決める話し合いでは、たくさんの子が立候補しました。「1年生にやさしくしてあげたいです。」「1年から4年をまとめて、楽しく遊びたいです。」など頼もしい言葉が子どもたちから出てきました。

1~3年生を引っ張るためには、何ができるか。現在4年生は一生懸命考えています。真剣に考える姿は本当に立派です。“下級生に優しくする。”“手本となる行動をする。”“周りをよく見て動く。”など、これから1-4ブロックの最上級生として、自分たちで考えてがんばっていきたいと思います。



特別支援学級6組 「16名でスタート」

学年主任 吉田 達

7年生4名が入学して、16名でスタートしました。毎日学級目標である、1、返事 2、あいさつ 3、いすを入れる 4、相談・報告に向け、朝の挨拶から取り組んでいます。8、9年生は先輩として自覚を持って、学校や学級のことを教えたり、授業の受け方や態度の見本を示し、時にはアドバイスしたりとても頼もしい姿を見せてくれています。例えば、清掃活動では、縦割りの3つの班に分け、9年生をリーダーとして、毎回分担ごとに終了後集まって、今日の分担場所の反省を行い確認しています。また、チャイム着席では、チャイムと同時に9、8年生が座り、チャイムに気づいていない7年生に「チャイムが鳴ったよ」とやさしく声かけをしてくれます。授業中も少しざわついた時には、「こうしたらいいのでは」とか、「こうしようよ」と、声かけをしてくれます。

7年生はとにかく元気で明るく、朝から学年で固まって大きな声で話をしたり、昼休みに校庭でのびのびと遊んだりしています。少しずつ、先輩たちのお手本を真似て、授業中の態度や学級や委員会の仕事を積極的に取り組むようになりました。

運動会で各競技を一生懸命に皆で協力して取り組んで頑張れたことを、6月の移動教室では更に全員で一致団結して取り組んでいきたいと思います。



6学年 「伝え合い、認め合える6年生を目指して」 学年主任 井口 明

6年生の教室には、それぞれのクラスの目標が掲示されています。この目標ができるまでには、子どもたち同士のいろいろな話し合いがありました。この6年生のいいところは、「自分の意見や考えを、はっきりと主張できる」ことだと考えています。学習でも、いろいろな考え方が出され、その意見をもとにして学習が深まるという場面が多く見られます。運動会を前に、こんなことがありました。子どもたちの中から、「運動会でのクラスの目標を作ろう」という声が上がりました。運動会での子どもたちの最終目標は、「優勝すること」です。その優勝を目指すために、どんな力が必要かを話し合いました。出てきたのは、「助け合う」「励まし合う」「協力し合う」の3つでした。ところが、この話し合いは、ここでは終わらなかったのです。この3つの力を合わせれば、「仲の良いクラス」を作れる、という声になり、クラスの目標となったのです。

このようなことから、「伝え合う」力については、多くの児童に身に付いているという印象を受けました。

しかし、「認め合う」ことについては、まだまだ十分にできているとは言えない場面が多いことも事実です。自分の意見を主張するだけでなく、友達の意見や話に耳を傾けていくこと、自分の言動を振り返って反省すべき点については素直に反省をすることなどを通じて、互いの存在や思いを「認め合っていく」雰囲気を作りたいと考えています。

日野学園で、最も人数の少ない学年ですが、一人一人の個性は豊かです。その豊かな個性を存分に発揮しつつ、集団としてのまとまりや高まりを目指していきたいと思います。



8学年 「これが自慢・・・」 学年主任 加藤 伸作

「これが自慢」というものは特にありませんが、頑張っていることとして「部活動」をあげることができます。通常の練習に後輩の指導が加わるなか、各種の大会や発表会でも中堅学年として活躍しています。また、夏休み前後からは、9年生に変わって活動の中心的存在となります。部活動を堂々と誇ることができるように頑張っていることを、「自慢」としたいと思います。

8年生の学年目標は、「自主・勤勉・団結」です。この目標は、7年から継続して取り組んでいる目標で、生徒にも浸透しています。学年としては、この目標をあらゆる場面で掲げ、より達成度をあげていきたいと努力しています。その成果を「自慢」できる8学年となるように、この1年間頑張っていきたいと思います。



5月23日 快晴の下での運動会。

8年生は、9年生をしっかり支えました。全体を引っ張る9年生の手が

回らない1年生や2年生のお世話を率先してやってくれました。声をかけたり手を引いたりするその自然な姿は一貫校日野学園ならではの光景です。



屋上はふだん人が立ち入らない場所です。そこには、畑があります。さらに、西側に長さ12m、幅2mほどの水田が2面あります。日野学園では、この屋上の水田で、米作りをしています。

できた米は脱穀・精米し、給食の食材にして、学園の千人の児童生徒職員みなでいただきます。苗はPTAの関係の方の協力で毎年新潟の農家に分けていただいているコシヒカリです。それを無農薬で育てます。できたお米は文字通り

輝くような「銀シャリ」。おいしい給食が食べられて幸せです。都心の周囲は高いビルに囲まれた学校の屋上での米作り。一般の学校ではできないささやかな自慢です。しかし、そこに至るまでには、様々な場面で子どもたちはいろいろな経験をします。

冬の間荒れて雑草が生えてしまった田んぼを耕すことから始めます。大型のゴム袋に詰めても4つ分ぐらいに量になります。雑草の生命力は強いと感じられる場面です。

田植えでは、子どもたちが素足で田んぼに入り、泥だらけになります。足がはまって作業がしにくく、転ぶと目も当てられない状態になってしまいます。

子どもが成長するように、苗も生長します。最初は、根付くかどうか不安などほど、か細い苗。しかし、ほんの数週間で、茎を増やしていき、緑生い茂る草原のような水田になります。日光を浴びて、太陽のエネルギーでどんどん苗の成長に代わっていく感じです。

稲以外の生き物も田んぼの中で生きています。次々に生えてくる雑草。中にはイネと見分けがつかず大きくなるまでそのままになってしまいます。昆虫の擬態のように、本当にそっくりで、見分けられないのです。動物も棲み着きます。毎年、8月には、害虫と思われる蛾の幼虫が大量に発生。これには、参ります。多い日には200匹、少ない日でも100匹ぐらいを毎日、指でつまんでとります。9月に屋上のドアを開けると、100羽以上のスズメがいっせいに飛び立ちます。実り始めた米を食べているのです。防鳥ネットを張り巡らせて対応します。

そんな苦労も9月までです。稲刈り。左手で稲を一束つかみ、右手の鎌で、ぱっさりと切り取ればいいのですが、子どもたちにしてみれば、結構力がある作業です。

他にも、小さなイベントが発生するのですが紙面の都合で省略します。日野学園では、屋上の米作りを通して、貴重な体験学習がなされています。

6月行事予定

月	火	水	木	金	土	日
1 常任委員会 教育実習始	2 常任委員会 中央委員会 耳鼻科7・8	3 水曜特別時程	4 音楽鑑賞教室8 連携校6年1日 体験	5	6	7
8	9 眼科8・6組	10 学年町会 耳鼻科9・6組	11 歯科1 6 6組	12 眼科7	13 地域清掃	14
15 眼科9	16 避難訓練 移動教室前検診 6組	17 全校朝礼	18 歯科7 9	19 P運営委員会	20 土曜登校日 進路説明会9 教育実習終	21
22	23	24 児童生徒会朝礼 移動教室6組	25 期末考査5 9 移動教室6組	26 期末考査5 9 移動教室6組	27 囲碁大会	28
29	30					